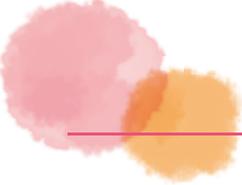


第3回

市民の声を聴く会



千歳市議会



本日の日程

- 1 開会
- 2 出席議員の紹介
- 3 議長あいさつ
- 4 議員定数に関する結論と結論に至った経緯について
- 5 政務活動費の今後の方向性について
- 6 休憩
- 7 質疑応答
- 8 副議長あいさつ
- 9 閉会



2 出席議員の紹介



3 議長あいさつ

千歳市議会
議長 高秀 政博



4 議員定数に関する結論 と結論に至った経緯に ついて

千歳市議会 議会運営委員会
委員長 五十嵐 桂一



4 議員定数に関する結論と結論に至った経緯について

議員定数の推移	<ul style="list-style-type: none">○ 昭和43年改正 36名 → 32名（4名削減）○ 平成12年改正 32名 → 30名（2名削減）○ 平成16年改正 30名 → 28名（2名削減）○ 平成20年改正 28名 → 25名（3名削減）
取組計画 （推進プラン 抜粋）	<p>議員定数については、今回の議会改革の議論では、現状維持が大勢でしたが、市民の皆さんにもさまざまな意見があることから、今後も市民の皆さんの声も踏まえながら、継続して検討していきます。</p>

4 議員定数に関する結論と結論に至った経緯について

○平成25年執行
市議会議員選挙が無投票



千歳市議会として、無投票
に対する分析および総括を
第2回市民の声を聴く会に
おいて報告



第2回市民の声を聴く会
【平成26年2月7日開催】

4 議員定数に関する結論と結論に至った経緯について



平成25年12月議員学習会
【法政大学 廣瀬教授】



平成26年9月議員学習会
【山梨学院大学 江藤教授】



平成27年1月議員学習会
【法政大学 廣瀬教授】

4 議員定数に関する結論と結論に至った経緯について



議会運営委員会行政視察
【小樽市議会訪問】



議会運営委員会行政視察
【岩見沢市議会訪問】

4 議員定数に関する結論と結論に至った経緯について

○議員定数に関する議員意見交換会【平成26年10月20日開催】



議員定数に関する意見 (参加議員 24名)	定数維持	定数削減	定数増
	16名	7名	1名

4 議員定数に関する結論と結論に至った経緯について

○市議会ホームページ

「議員定数のあり方」に関する意見交換会における各議員の意見
(平成26年10月20日開催)

【意見内容－発言順】

発言順	氏名	定数のあり方	理由(要旨)
1	田口 博	現状維持	<ul style="list-style-type: none">・定数削減となると、特定の支持基盤のある人のみが当選し、議会の構成や考え方が偏ることとなり、多様な意見を反映できない。・委員会を構成する上で、1委員会6人構成では十分な議論ができないと考えており、委員数は7～8人は必要と考え、委員長は実質的な議論に加われないので、8人×3委員会=24人で、これに議長を加え25人となる。・千歳市は面積が広く行政課題も多いこと、さらに人口も増加しており、同じ人口規模の団体との比較だけで議員定数を考えるべきではない。・議員定数削減だけが議会改革ではない。
2	宮原 伸哉	現状維持	<ul style="list-style-type: none">・議員定数を考える上で3つの点を考えており、①前回選挙の無投票に対してどう考えるか、②定数削減で痛みを伴った改革を行なったということだけには陥りたくない、③平成23年の自治法改正により定数の上限は撤廃されたが、撤廃となった今も、議員が住民の声を議会に反映させるためには重要な数値であるということを勘案して考えた。・市民を重視した観点では、議会の状況を知らせるため報告会を開催した際、コミセンが12カ所あるが、半分の6地区で議員報告会を実施した場合、1地区3人の議員が担当すれば3人×6地区+議長=19人だが、4人の議員が担当すれば25人が必要であり、19人では委員会方式で考えてもそぐわないことから、25人が的確であると考えている。

4 議員定数に関する結論と結論に至った経緯について

○平成27年2月5日開催 議会運営委員会



定数維持	定数削減	定数増
10名	9名	1名

※ 議員数22名中、議長及び副議長を除く20名

○平成27年2月23日開催 議会運営委員会

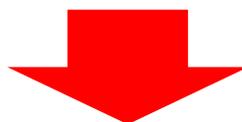
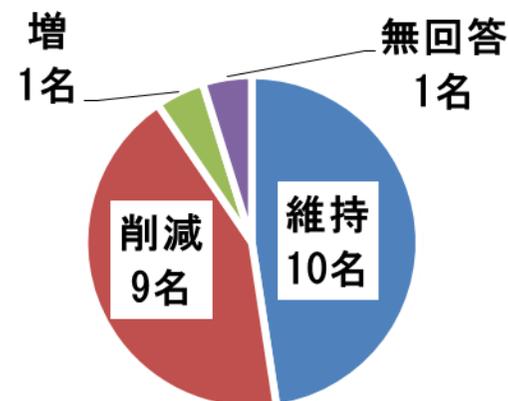
定数維持	定数削減	定数増	無回答
10名	8名	1名	1名

※ 議員数22名中、議長及び副議長を除く20名

4 議員定数に関する結論と結論に至った経緯について

○平成27年2月5日の時点では、議員（現員22名）の意見は、現状維持が多数

【定数に関する意見】



- 半数近い議員が定数削減を主張していること
- 補欠選挙の結果で、維持から削減に変更する議員がいたこと
- 議員定数が多いと考える市民が多数いること

現状維持 と 定数削減 の両論併記

4 議員定数に関する結論と結論に至った経緯について

○現状維持と定数削減の両論併記とした理由

①定数維持の結論を出した場合



定数削減派が削減の条例案を提出しようとしても、議会運営委員会では議題とされないことも想定されること

②定数議論は市民の関心が高い案件



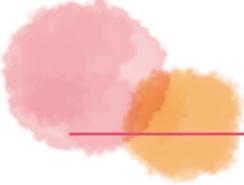
本会議で結論を出すことが相応しいと判断したこと



4 議員定数に関する結論と結論に至った経緯について

○定数増の主な理由

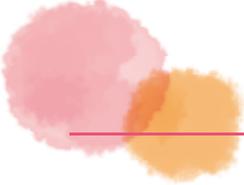
- 市政について市民の関心を高めるため
- 市民要求を実現するため
- 常任委員会の数を増やし、議論を掘り下げるため
- 落選のリスクを減らし、立候補しやすい環境をつくるため



4 議員定数に関する結論と結論に至った経緯について

○定数維持の主な理由

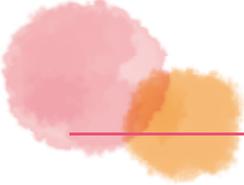
- 削減は組織を持つ候補者が有利になり、立候補者の減少が懸念される
- 削減は当選のハードルが高くなり、無投票回避には逆効果
- まずは議会改革を進め、市民の期待に応える議会を目指す
- 定数削減だけが改革ではなく、多いほうが議論が深まる
- まずは議員の質の向上に取り組むべき
- 市長に対して議会の権能を果たすためには25名が必要



4 議員定数に関する結論と結論に至った経緯について

○定数削減の主な理由

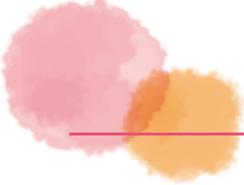
- 効率的な議会運営を行い、議員の質を高めるべき
- 常任委員会は、7名の委員でも機能する
- 人数が多いから議論が活発になるとは思えない
- 前回選挙が無投票であったことは無視できない
- 人口規模が類似する他市と比べて2～3名多いのでは



4 議員定数に関する結論と結論に至った経緯について

○議員定数に関する外部講師の意見

- 無投票選挙は議員のなり手不足を示しているが、議員報酬の引き上げなど、条件により回避している実例がある
- 人口から議員定数を導くことは、ほぼ不可能
- 常任委員会には、7～8名以上の委員が必要ではないか
- 2名程度の定数削減では、議会が決定的に変化することはないが、改選期ごとに削減すれば、ある時点で質的な変化が生じる
- ある程度少数意見を代表する議員が当選可能な定数が必要



4 議員定数に関する結論と結論に至った経緯について

○議員定数に関する外部講師の意見

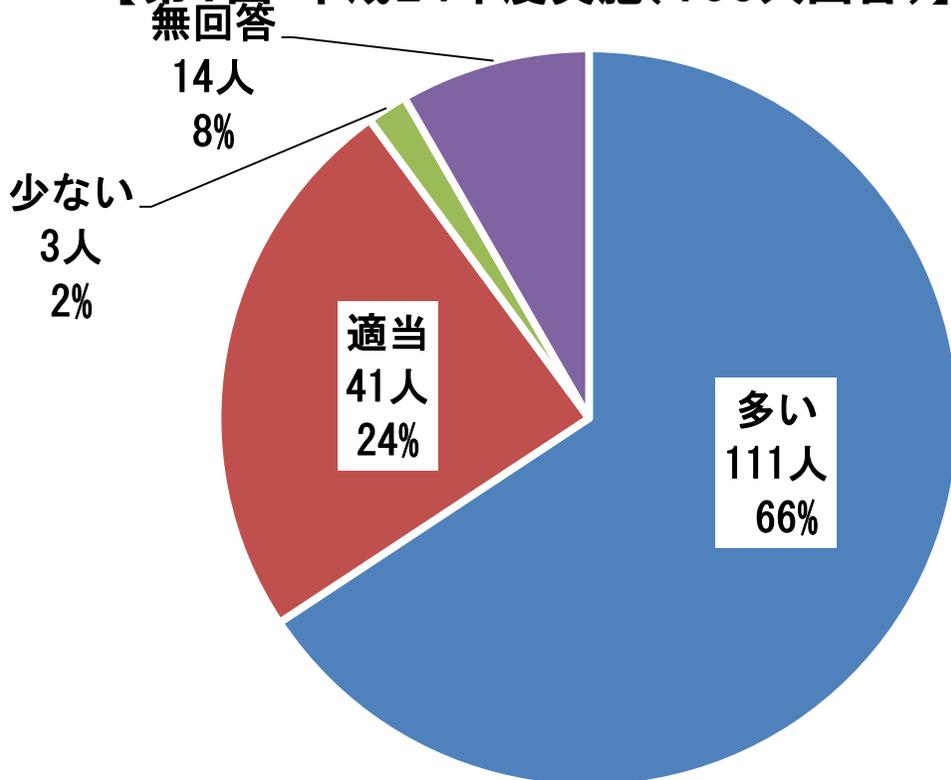
- 異質な視点、多数の常識から外れた議員の存在は重要
- 住民が積極的に議会・議員活動を支援する場合は、定数削減の可能性はある
- 首長サイドと並ぶ強力な機関として議会を成立させるための討議ができる人数が必要

4 議員定数に関する結論と結論に至った経緯について

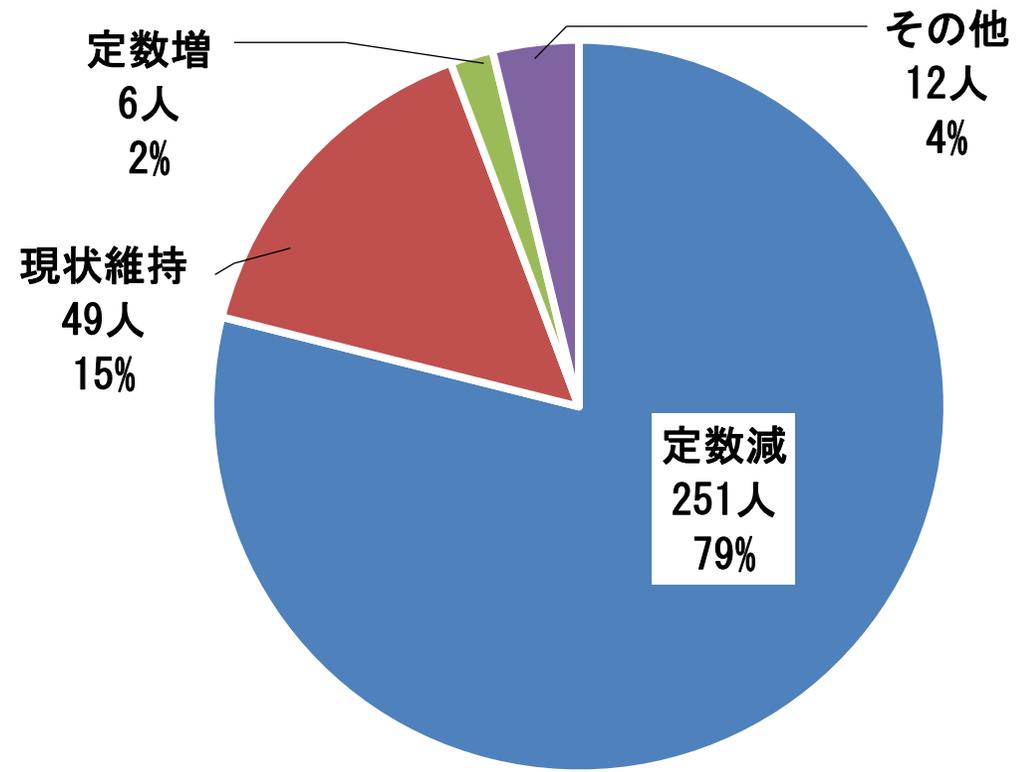
○千歳市議会に対する市民アンケート結果

問. 定数が25人であることについて、どう感じますか。

【第1回:平成24年度実施(169人回答)】



【第2回:平成26年度実施(318人回答)】





4 議員定数に関する結論と結論に至った経緯について

○千歳市議会に対する市民アンケート結果

問. 定数が25人であることについて、どう感じますか。

●定数維持と回答した主な意見

- ・市民の声をまんべんなく反映するには25名が良い
- ・多様な意見の反映には、一定の人数が必要
- ・他市町村と比べて大きな差はない



4 議員定数に関する結論と結論に至った経緯について

○千歳市議会に対する市民アンケート結果

問. 定数が25人であることについて、どう感じますか。

●定数増と回答した主な意見

- 伸びる千歳、人数を増やせばアイデアも増す
- 身近に議員がいると安心



4 議員定数に関する結論と結論に至った経緯について

○千歳市議会に対する市民アンケート結果

問. 定数が25人であることについて、どう感じますか。

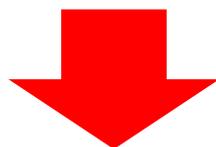
●定数減と回答した主な意見

- 無投票だったので減らすべき
- 少数精鋭で資質の向上を図る
- 何をしているかわからないから減らすべき



4 議員定数に関する結論と結論に至った経緯について

○議会運営委員会では、**現状維持**と**定数削減**の両論併記



現状維持が妥当と結論

**選挙に立候補しやすい環境づくり
を行うことが重要**



4 議員定数に関する結論と結論に至った経緯について

○市議会議員選挙無投票についての分析

①無関心層の増大による政治離れ

- 投票率の低下が顕在化

②候補者のなり手不足

- 金銭面での不安（特に選挙費用や生活設計）
- 将来への不安



4 議員定数に関する結論と結論に至った経緯について

○市議会議員選挙無投票についての分析

③立候補者を支援する側の不足

- ・ 後援会などの組織的な支援体制がづくりづらい

④議会活動および議員活動のわかりづらさ

- ・ 議員活動や役割の周知の取り組みが少ない
- ・ 議員への依存度の低下



4 議員定数に関する結論と結論に至った経緯について

○市議会議員選挙無投票についての分析

⑤行政に対する満足度が高い

- ・ 一定程度、市民ニーズが行き届いている

⑥立候補しやすい環境づくりが不十分

- ・ 各種団体の具体的支援や経済的不安の解消
- ・ 立候補者を支援する組織づくりなどは、時代に合った具体的対応策が必要



4 議員定数に関する結論と結論に至った経緯について

○市議会議員選挙無投票についての総括

- ①議会の役割や活動について広報や周知を進め、議会の活性化に向けて取り組む
- ②市民生活の公益性を確保するため、議員個人の資質向上に取り組む

4 議員定数に関する結論と結論に至った経緯について

○おわりに



「市民に、より信頼される議会」
を目標に議会改革を進めます！



5 政務活動費の今後の 方向性について

千歳市議会 議会運営委員会
委員 松隈 早織



5 政務活動費の今後の方向性について

○本日本話する内容

(1) 政務活動費とは

(2) 国の対応

(3) 千歳市の対応

① 個人調査旅費から政務活動費へ

② 政務活動費の現状

③ 政務活動費の見直し理由

④ 政務活動費の今後の方向性

5 政務活動費の今後の方向性について

(1) 政務活動費とは

議員活動

① 議会（機関）としての活動

- ・ 本会議や委員会における審議
- ・ 常任委員会における所管事務調査
- ・ 常任委員会における行政視察
（年間12万円を限度） など

公費の
対象

② 議員としての活動

- ・ 市民ニーズの把握
- ・ 議員個人における議案や政策に関する調査・研究 など

政務活動費
の対象

5 政務活動費の今後の方向性について

(2) 国の対応

- 平成12年 地方分権一括法の成立
 - 国の関与を見直し、権限委譲を推進
 - 地方の特性を生かした地域づくりを促進



地方議会の役割と責務が拡大

地方議会の審議能力を強化し、調査活動基盤の充実のため、調査研究費として「**政務調査費**」を制度化

5 政務活動費の今後の方向性について

(2) 国の対応

政務調査費は、経費の範囲が調査研究に限定



地方分権の進展により、市民ニーズの多様化など、議員の役割がさらに広がり、議員活動のさらなる強化が必要



平成24年 地方自治法改正

- 「政務調査費」を「政務活動費」に名称変更
- 経費の範囲を「調査研究その他活動」に拡大
- 議長による透明性の確保を明文化

5 政務活動費の今後の方向性について

(3) 千歳市の対応

①個人調査旅費から政務活動費へ

- ・ 個人調査旅費を支給（年間15万円を上限）



平成17年度開始の財政健全化計画にあわせて、
個人調査旅費を一時凍結

5 政務活動費の今後の方向性について

(3) 千歳市の対応

① 個人調査旅費から政務活動費へ

- 平成17年 千歳市議会政務調査費の交付に関する条例を制定 (政務調査費を条例化)



(条例の内容)

- 交付額 1人あたり年間3万円を上限
- 使途基準の明文化
- 支出報告書の市民への公開を明文化
(議会だより、市議会ホームページに掲載)

5 政務活動費の今後の方向性について

(3) 千歳市の対応

①個人調査旅費から政務活動費へ

- 平成25年 千歳市議会政務活動費の交付に関する条例に改正



(条例改正の内容)

- 名称を「政務調査費」から「政務活動費」に変更
- 経費の範囲を「その他活動」に拡大することは、交付目的をあいまいにするとして、改正を見送り
- 議長による透明性の確保を明文化

5 政務活動費の今後の方向性について

(3) 千歳市の対応

②政務活動費の現状

- ア 交付対象 会派に対して支給
- イ 交付額 所属議員1人あたり年額3万円を交付
- ウ 交付方法 年度当初に概算払い（残額は返還）
- エ 用途範囲
- 研究研修費 … ○研修参加費、○講師謝礼
×交通費、×宿泊費、×飲食費
 - 資料作成費 … ○消耗品費、○印刷費、△PCソフト
 - 資料購入費 … ○書籍代

5 政務活動費の今後の方向性について

(3) 千歳市の対応

②政務活動費の現状

才 透明性の確保

- 全ての領収書の写しを議長に提出
- 収支報告書は、議会だより、市議会ホームページで公開

【市議会ホームページ】

平成25年度政務活動費収支報告

各会派の支出項目の【明細】をクリックすると明細画面が開きます。

自民党議員会

収入 政務活動費交付額 360,000円 (30,000円×12人)

支出

項目	金額 (円)	備考
研究研修費 【明細】 [17KB pdfファイル]	78,000	札幌・石狩地方議員連絡協議会 研修会費、地方議員研究会セミナー受講代
資料作成費 【明細】 [18KB pdfファイル]	197,283	プリンターインク、コピー用紙、ファイル、ホッチキス代等
資料購入費 【明細】 [36KB pdfファイル]	63,578	書籍、新聞代等
合計	338,861	

収支差額 : 21,139円 (平成26年5月19日返還)



5 政務活動費の今後の方向性について

(3) 千歳市の対応

③政務活動費の見直し理由

- 地方自治体の役割、責任が拡大し、地方議員は、さらに議員としての能力を高め、地域のため活動する必要がある
- 議会改革推進プランの取組計画に「適正な金額や使途、領収書の公表等も含め、継続して検討する」としている
- 千歳市議会の現状は、多くの議員が年額3万円では十分な調査ができないと考えている
- 過去3回の議員学習会において、外部講師から、千歳市の政務活動費は見直すべきとの意見を受けている



5 政務活動費の今後の方向性について

(3) 千歳市の対応

④政務活動費の今後の方向性

- 議員活動を活性化し、よりよい政策判断を可能とするよう、見直していく
- 市民理解を得るため、政務活動費の用途について、さらなる透明性の確保を図る

【議会の共通理念】

「すべては市民のため」



5 政務活動費の今後の方向性について

(3) 千歳市の対応

④政務活動費の今後の方向性

○主な見直しの内容

- | | | |
|---|------|----------------------|
| ア | 交付対象 | 会派支給又は個人支給【責任の明確化】 |
| イ | 申請方法 | 具体的な計画書の作成など、内容の見直し |
| ウ | 交付金額 | 増額の方角で検討 |
| エ | 交付方法 | 概算払い、精算払いなど、適正な方法を検討 |

5 政務活動費の今後の方向性について

(3) 千歳市の対応

④政務活動費の今後の方向性

○主な見直しの内容

才 経費範囲 全国市議会議長会が作成した使途基準、他議会の条例、判例等を参考に、千歳市に合った使途基準を検討

力 透明性の確保

- ・さらなる市民理解を得るため、報告書の内容を検討
- ・平成26年度分から、市議会ホームページに、すべての領収書の公開を決定



5 政務活動費の今後の方向性について

(3) 千歳市の対応

④政務活動費の今後の方向性

○今後のスケジュール

- 平成27年6月下旬 具体的な検討を開始
(第2回定例会後)
- 平成28年4月 又は 平成29年4月 施行



6 休憩



7 質疑応答



8 副議長あいさつ

千歳市議会

副議長 田口 博

本日はありがとうございました。



千歳市議会